

【学校教育目標】知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもの育成



学校だより

鈴鹿市立愛宕小学校
令和5年10月31日
No. 19



6年生 修学旅行に行ってきました

10月19日（木）20日（金）、京都に行ってきました。学校を出発する際、実行委員の児童から「最高の思い出を作しましょう」という挨拶があり、皆元気にバスに乗り込みました。

さて、今年の修学旅行の目的は4つ。「京都の歴史的文化遺産に触れ、日本の歴史をより深く知る」「体験学習を通して、京都の伝統文化のすばらしさを体感する」「集団行動を通して、協力することや責任を果たすことの大切さを学ぶとともに、仲間と楽しく過ごす」「公衆道徳を守り、健康や安全に気を付けて行動する」です。この目的を一人ひとりがしっかりと意識し、充実した二日間を過ごすことができましたと思います。

1日目は、大仙院（座禅・説法体験とお抹茶体験）、金閣寺、レストラン嵐山での昼食、トロッコ乗車（嵯峨駅から亀岡駅まで）、三十三間堂を巡った後、旅館に入りました。大仙院では、座禅後の住職様の「気は長く、心は丸く、腹立てない、人は大きく、己は小さく」という言葉が大変印象的でした。心が洗われたような気分で修学旅行がスタートしたように思います。そして、清々しい秋晴れの下、光り輝く金閣寺の煌びやかさや、薄暗い本堂内に整然と並んだ千体の千手観音像の荘厳さは、何度見ても「素晴らしい」の一言でした。また、昼食後のトロッコ乗車では、車窓から保津峡の絶景を眺めながら楽しいひと時を過ごしました。



大仙院



座禅体験



お抹茶体験



金閣寺



トロッコ列車



2日目は、旅館を脱した後、銀閣寺、八つ橋庵とししゅう館での八つ橋づくり、清水寺、清水坂での買い物、おかべ順正での昼食、二条城を巡り、帰路につきました。

白砂の庭園に佇む銀閣寺の姿から醸し出す日本らしいわび・さび、崖からせり出した「清水の舞台」から望む古都京都の景色の美しさをしっかりと味わうことができました。また、豪華絢爛な唐門をくぐり、見事な障壁画が描かれている各広間、特に大政奉還の舞台となった大広間を目の当たりにした二条城では、200年以上続いた江戸時代の歴史の移り変わりを感じました。



銀閣寺



八つ橋づくり



清水寺



二条城

二条城で少し小雨が降ってきましたが、2日間とてもよい気候でした。子どもたちが無事に笑顔で学校に戻ってくることができ、大変うれしく思います。

2日間を共に過ごした仲間との絆を糧に、愛宕小のリーダーとして、残りの小学校生活をより一層充実させていってくれることを期待しています。

◆10/27～11/9は読書週間 です！



「秋の夜長」と言いますように、いつの間にか日没の時間が早くなり、その分夜が長くなったように感じるこの頃です。この季節、是非読書をしてみては・・・

これまでも「読書のよさ」はお伝えしてきましたが、今年度夏季休業中に汐見稔幸先生の講演「非認知能力を育てるために学校・地域・家庭でできること」を聞く機会がありました。（8月18日の教育講演会で、保護者の方の中で参加いただいた方もみえます。）

学力（≡認知能力）とは異なる非認知能力が、人間の成長にとって大事だというお話でした。その中で、非認知能力として、探求心（物事の本質を捉えようとする姿勢、好奇心）、共感性（喜怒哀楽を感じ取ることができる感性）、倫理観（善悪の判断において普遍的な基準となる考え方）などを挙げています。そして、「脳の真ん中にある脳幹、感情を司る部位を働かせる経験が豊かであるほど、非認知能力が高まる」と言われていました。「読書は心の栄養」と言われる所以は、豊かな感性を育む読書活動がまさしくこの非認知能力の育成に繋がるからではないのかなと考えさせられました。

秋の夜長、ゆったりと読書をしてみませんか？

